

2021年度 高等学院同窓会学術研究奨励金
研究成果報告書概要（WEB公開用）高等学院長
高等学院同窓会理事長 殿

研究代表者氏名 [小林 光希]

学年・組・番号 [3年 E組 11番]

研究課題： 対馬における野鳥の生態系と環境保護に関する研究

(英文) A Study on Bird Ecology and Environmental Protection in Tsushima

研究概要：

(研究課題を選んだ動機、達成するための計画・目的・方法等について200～400字で記入してください)

国境離島である対馬の自然環境や生態系などを観察しそこから見える問題やそれに対応する解決策を考察した。越境対馬2021というプログラム名で対馬への巡検を実施し、フィールドワークや環境保護等に関わっている人々のお話を実際に聞くことによってこれらの問題に対する理解を深めることを目的とした。韓国との地理的距離が近いことや離島であること、それに加え渡鳥の休息地となっていることなどから本土では見ることができない特殊な生態系を観察できることが対馬で巡検を行った一つの理由だ。

研究成果：

(研究の結果概要、結果に対するフィードバックや感想等について200～400字で記入してください)

渡り鳥は日本全国各地の水田地帯で小規模単位にて越冬していたが、明治以降の乱獲や、湿田などの生息環境の悪化などで多くの越冬地が消滅してしまい、群れで渡るようになった。それにより一極集中による伝染病の蔓延や大量死のリスク、風力発電による飛行中の事故、農地への負荷が大きい事などが世界的な問題となっている。

また、野鳥の減少は、越冬地・中継地・繁殖地の環境変化や気象変動によるものや人間の開発による環境の悪化が原因とされる。人が耕作放棄することで採餌能力が劣る幼鳥の死亡率も上がり、野生動物シカやイノシシが増えて生物多様性にも悪影響を及ぼしている。具体的に対馬ではチゴモズ、カラアカハダが増加しており、生態系への悪影響が見られる。

対馬を訪れ目にした生物多様性は、自然環境の豊かさの証明であり、鳥や生物も自然や地球を構築する存在であること、人間はそれを壊さず共存し、保護する存在で在りたいと改めて考えさせられた。

研究者：(以下の、代表者・分担者は学年・組・氏名を明記する)

研究代表者 3E 小林 光希

研究分担者 3E 原 波斗

3E 藤島 周吾

3E 横内 滉大

3F 岸 祐介

3F 工藤 大祐

2E スミス 頼安

担当教諭 秋山 和広

(受給額： 25,000円)

※研究課題、研究概要、研究成果、研究代表者名がWEBページ上で公開されることに同意します

(次のページに続きます)

研究成果写真：

(研究過程がわかる写真や、研究結果がわかる写真などを数点貼り付けてください)

